

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査に係る調査結果について

平成 30 年 4 月 17 日（火）に県立中等教育学校前期課程 3 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、県立中等教育学校の生徒の学習及び生活状況の概況をお知らせします。

今回の分析結果を踏まえ、今後は、各学校と協働しながら学力向上と教育課程や学習指導の充実・改善を図っていきたいと考えております。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査の内容

①教科に関する調査

- ・主として「知識」に関する問題 国語A、数学A
- ・主として「活用」に関する問題 国語B、数学B
- ・理科については、主として「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題

②質問紙に関する調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(3) 調査結果の見方

調査結果については、序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の数値による結果の公表はいたしません。

2 教科に関する調査の分析・改善に向けて

【平均正答率】

(単位：%)

(%)	国語		数学		理科
	A	B	A	B	
中等教育学校	92	83	91	84	87
神奈川県	76	62	66	48	66
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

※ 平成 29 年度から、平均正答率は整数値（四捨五入した数値）で、文部科学省からデータが配付されています。

(1) 国語に関する調査結果

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等のそれぞれの平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題・B問題は、すべての領域等において概ね満足できる結果であった。

《課題があった内容》

- ◆ 「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと」の問題では、正答率が低かった。(A問題 四 2)
- ◆ 「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと」の問題では、正答率が低かった。(B問題 1 三)

《改善に向けて》

国語では、「書く力」を向上させるために、目的に応じて内容を整理して文章を書いたり、情報を整理して内容を的確に捉えたりするなど、まとめて書く活動へとつなげる授業の工夫・改善が必要となる。

(2) 数学に関する調査結果

「数と式」、「図形」、「関数」及び「資料の活用」の領域のそれぞれの平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題・B問題は、すべての領域において概ね満足できる結果であった。

《課題があった内容》

- ◆ 「歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、一次関数と関連付けて理解すること」の問題では、正答率が低かった。(A問題 12)
- ◆ 「列車アが通ってから列車エが通るまでの時間について、グラフから求める方法を説明すること」の問題では、正答率が低かった。(B問題 3 (3))
- ◆ 「団体料金が通常料金の何人分あたるのかを数学的な表現を用いて説明すること」の問題では、正答率が低かった。(B問題 5 (2))

《改善に向けて》

- 関数関係を用いて具体的な事象や場面を考察したり、数学的な結果を事象に即して解釈し、数学的な表現を用いて説明したりする指導が必要となる。

また、根拠を明らかにし、筋道を立てて説明し、伝え合う活動など論理的思考力の育成に重点を置いた指導の工夫・改善が必要となる。

(3) 理科に関する調査結果

分野別では、第1分野「物理的領域」「化学的領域」、第2分野「生物的領域」「地学的領域」のそれぞれの平均正答率を全国の結果と比較すると、すべての分野において概ね満足できる結果であった。

《改善に向けて》

- 理科では、物理・化学・生物・地学の全分野に偏りなく興味を持って取り組めるよう各分野の相互の関連を図るなど、指導の工夫・改善が必要となる。

3 質問紙に関する調査の分析・改善に向けて

(1) 学校生活について

《良好であった内容》

- ◇ 「数学の勉強が好きだ」「理科の授業が大切だ」と答えた生徒の割合が、県内の公立中学校の生徒の割合と比べてはるかに高かった。
- ◇ 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問について、「そう思う」と答えた生徒の割合が、県内の公立中学校の生徒の割合と比べてはるかに高かった。
- ◇ 「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問について、「当てはまる」と答えた生徒の割合が、県内の公立中学校の生徒の割合と比べてはるかに高かった。
- ◇ 「将来、理科や科学技術に関係する就職に就きたいと思いますか」の質問について、「当てはまる」と答えた生徒の割合が、県内の公立中学校の生徒の割合と比べてはるかに高かった。

《更なる改善に向けて》

- 生徒の自分なりの考えをもち、お互いの考えを交流することを通して、多角的な見方・考え方を広げたり、深めたりする「主体的・対話的で深い学び」の充実を図ることが必要である。

(2) 家庭生活について

《良好であった内容》

- ◇ 1日当たりの読書時間について、「30分以上」と答えた生徒の割合が、県内の公立中学校の生徒の割合と比べて高かった。

《課題があった内容》

- ◆ 学校の授業時間以外での学習時間について、「2時間以上」と答えた生徒の割合が、県内の公立中学校の生徒の割合と比べてとても低かった。

《改善に向けて》

- 学校の授業時間以外での学習や読書時間が良好であるが、全国や神奈川県と比べて、2時間以上の家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が低いので、今後、家庭学習の充実に向けて取り組んでいく必要がある。

(3) その他

《良好であった内容》

- ◇ 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の質問について、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合が高かった。

《改善に向けて》

- 多くの体験学習を通して、自己の在り方・生き方について自覚を深めながら地域や社会の諸課題に目を向け、多面的で多角的に考察し、表現する能力を育てていく必要がある。